

究極国語体験セミナー

読解
作文に
法則がある

- 読解問題を《構造的読解》《精密読解》で一気に解決
- 作文も《構造理解+法則化》で誰でも上達します
- 《中小塾の差別化》《入試対策》《小学生確保》に

4月21日(木) 午前10:00~12:00 市民会館大宮にて

国語の学力こそ、全ての科目の基礎であり、しかも究極目標といえます。ところが、合理的な指導法、学習法が広まらないまま、「国語は指導しない」「仕方なく解説して終わり」となっている教室が少なくありません。
みなさんは「読解問題の得点が短期間に確実にアップすること」「作文力を訓練で確実に伸ばす方法がある」という事実をご存知ですか？
簡単です。きちんとした「読み方」「答え方」(読解)「書き方」(作文)を教えればよいのですから。
今回、私が塾の指導現場で開発した《究極読解&作文》の概要をセミナーでお伝えします。もちろん、半信半疑の方もいらっしゃるでしょうから、まずは試しとお考えになってください。国語指導の方法を劇的に変え、生徒を合格圏に一気に押し上げる《究極国語》をまずはご覧ください。

株式会社サイラブ 代表 白井孝明

★どんな方法？

読解

ポイントは《構造的に読む》《精密に読む》の二つ

第一の《構造的》について、(特に)論説文には必ず一定の構造が認められます。これを教え、その文章の主題・主張を示す「最重要段落」「最重要文」を割り出し、完全に読み込んで把握します。実はこの時点で多くの論説文読解の最終設問が苦もなく解けてしまいます。次に《精密に》。設問、本文の重要要素にマーキングを行い、「何を」「どう答えるか」を厳密に定めます。その後、本文で解答の根拠を探索します。
この方法は、単なる受験テクニックではありません。「対象を構造的に正確に把握する」という、学問全分野の基本といってもいい態度を作るのが目標です。そして、文章の構造を理解すれば、作文の征服まで、もうあと一歩です。

作文

文章の構造を理解すれば、書くことは難しくない

日記や生活作文は、生徒も比較的抵抗無く書くことができます。ところが、意見文・論説文となるともうだめ……これは大人でもいえることです。そして、入試や仕事などで求められるのは「意見」「論説」「報告」です。
なぜ苦手なのか？ 理由ははっきりしています。説得や説明のための文章がどのような構造で書かれるのかをきちんと教わっていないからです。さあ書いて、といわれてもイメージができません。
逆にいえば、構造や法則を教え、イメージできるようにしてやれば、作文はそんなに難しいことはありません。右の作例は、ごくありふれた成績の小中学生が書いたものです。どちらも保護者が驚き、本人もびっくりにして、そして自信を身につけてくれました。生徒にとっては一生ものの力に、塾にとっては「差別化の切り札」になるのが作文です。

この催しで、究極国語システムのアウトラインをお話します。
さらに具体的な内容や指導方法などは別途研究会(有料)をご案内します。



昨年5月、横浜市で開催
《神奈川県入試分析セミナー》の様様



TEL. 090-4469-2877
mail. shirai@silab.org

速報！

小6生 東京都立高校合格！？

公立高校入試国語で、7割の生徒が75%得点しました！

究極読解で読解は「遊び感覚OK」

読解問題の得点が短期間に確実にアップすること「作文力を訓練で確実に伸ばす方法がある」という事実をご存知ですか？

広島県～愛知県～神奈川県を直し、
目標は東京都！

今年度の公立高校入試国語で、7割の生徒が75%得点しました！

Aくん 都立入試読解問題：全問正解！

「究極国語」の開発過程で、
こんなことを実践しました…

読解

●中3：15名

…1ヶ月強の指導：私が指導しました
実力テストの平均点約10点アップ(50点満点中)

●広島県の導入塾～小6：8名

…1年間の指導：担当の先生にノウハウを伝授しました
年度末に広島・愛知・神奈川入試(小説読解)で1/3が満点、
残り全員が75%得点～都立は7割の生徒が75%得点
・上はその時の塾だよりです

●神奈川県導入塾～中3：32名

…都立戸山の過去問(論説文読解)に挑戦。
作文を除いて全員が全問正解。

作文

小6の指導後の作例です。静岡県の導入塾の塾生が書き、
中日新聞の読者投稿欄に掲載されました。

学校からの帰り道。今日はカラスが1ヶ所にたくさん集まっている。
私はカラスが好きだ。賢いからだ。

以前、テレビで「くみを自動車でひかせて、殺害してたばか」カラスが神社のさい銭を盗み、自動販売機でハートのえさを購入している
などとやっていた。実に賢い。しかし、友達もカラスが嫌いだとい

う。
なぜカラスには、悪いイメージがあるのだろうか。調べてみると次のようなことがわかった。「カラスが集まる場所では死人が出る」「カラスが鳴くと人が死ぬ」などの迷信がある。なるほど、葬式の時にはみな黒い服を着る。それは、まるでカラスが集まっているようだ。カラスは、黒いから知られるらしい。見た目は大事だ。私は、間もなく中学生になる。中学校では、制服を着る。制服は、学校の看板だ。それをだらしない、ネクタイを一人がはずしていたりすると、学校全体がだらしない、と思われてしまう。だから身だしなみをきちんとしたい。

横浜市で夏休みの「読書感想文指導」のセミナーを開催
しました。小3の入選作の一部です。

—ぼくたちは、めぐまれている。

ケニヤのザッカーは、自分でゴールを作った。ブラジルのチコは、くつがない。サッカーをはだしてやると、足がいたくなるからかわいそうだ。インドのラビは、かべを使ってれんしゅうしている。ゴールがないから、自分で、ゴールをかべに書くことを思いついてすごい。メキシコのカルロス、父さんと海に出るので、朝一番に起こされた。しごとの手伝いに行く前に、サッカーのれんしゅうをしているから、えらい。ゴールも自分で作ったみたい。

ぼくは、ゴールを作らなくてもいい。サッカーシューズも持っている。しごをしないで、サッカーのれん習に行ける。ぼくはめぐまれている。だから、もっとサッカーのれん習をしっかりやる。みんな、自分のゆめをもっている。それは、ワールドカップでうろうろしたいというゆめ。ぼくも、思っている。ザッカー、チコ、ラビ、カルロスみんながんばって、サッカーのれん習をしている。ぼくは、みんなより、めぐまれていることが分かった。だから、もっともっとれん習して、ワールドカップに出るぞ。